

## 第3章 図書館を拠点とした地域情報化の推進

### 3.1 図書館を拠点とした活動立ち上げの経緯

「調布市地域情報化基本計画」に示されたりアルコモンズとしての図書館を実現するために、今年度は以下のような具体的に活動を推進してきました。

#### (1) 「知の蓄積活動」の高度化

図書館が「知の蓄積と連携」を可能にする新たな空間なるべきことが、基本計画の中に書き込まれています。

ITの発展を有効に活用した新たな「知の蓄積」活動に関しては、図書館の本来業務の一形態として推進されるものであり、地域情報化の施策としてこの委員会が新たに関わることはあまりないと考えられます。知の蓄積は、これまで図書館が担ってきた本来機能です。図書所蔵・閲覧がその具体的な活動といえます。ITの進展により、知の蓄積の範囲は飛躍的に拡大し、また、効率化が進みました。データベースの構築やデジタルアーカイブ化などがあげられます。これらの活動の推進に関しては図書館関係者の活動に期待します。

重要なのは、「知の連携」に関する機能の開発と実装です。そして、基本計画には具体的な記述はありませんが、「知」を、問題解決のために活用していくための仕組み作りへの取り組みが必須です。

#### (2) 図書館の新たな機能としての「知の連携」活動

「知の連携」は新たな機能といえます。それは従来行われてきている図書館業務の連携を超えて、他の教育機関、民間企業、諸組織のみならず、住民・市民(生活者)の中に散在する「知の連携」をも可能にするものです。

また、知の連携には、それを可能にするインフラ的な部分と、運用や応用に関するソフトウェア的な部分とが必要になります。知の連携に関するソフト的側面については、前年度の「WG1」における「オープンゼミ」活動が、それに取り組んでいました。その活動の発展的な継続として、「市民コーディネーター」養成のための「図書館セミナー」が開催されることになりました。

#### (3) 図書館セミナーの開催

基本計画の精神を実現するためのアクションプランの1つとして、文部科学省の「社会教育活性化21世紀プラン」へ応募し、全国に調布市の活動状況を発信すると同時に、活動資金源の多様化が目論まれました。資金源としては、このほか、基本計画を実現する実施計画として、市からの予算割り当てが期待されたが、今年度は実現に至りませんでした。幸いに、上記の応募が文部科学省に評価され、モデル事業として採択された(経緯については、3.2 節参照)ので、図書館を「地域情報化拠点」とするための取り組みが開始されることになりました。

ねらいは、ITとはどのようなものか、情報化はどのように展開してきているのか、情報化で何が変わるのか、生活やコミュニティの問題・課題は何かを理解し、コミュニティや生活における問題点や困難をITを活用して解決しようとする人材を育てることにあります。

一般に、住民・市民には、問題解決の経験が少なく、従ってまたそのノウハウの蓄積もありません。このことが原因となって、地域コミュニティや生活日常での情報化が順調に進んでいないのです。いわば問題解決の前提条件が備わっていないわけです。課題発見力の形成のためには、構造化されている日常性を脱する必要がありますが、それは学習プロセスによる状況理解と参加へのインセンティブを必要とします。それだけではなく、さらにソリューションの手段(すなわちIT)に関する知識も必要となります(手段の技術的特性の理解も含む)。これらをどのようにして実現していくかが、これからのIT進化の重要な課題の1つです。

そこで、問題解決の前提を形成する工夫として、図書館を「学びの場」として設定すること、そして、市民の中に、地域コミュニティの情報化を推進するリーダーを養成することを目指すことになりました。具体的には「図書館セミナー」として、市民向けの連続セミナーが2回、図書館職員向けの連続セミナーが1回企画されました(詳しくは、3.3節参照)。

### 3.2 地域情報化活動の施策等

#### (1) 文部科学省「社会教育活性化21世紀プラン」

文部科学省のこの助成プログラムの概要は以下のような内容です。このプログラムへ応募し、企画が採択されました。

---

社会教育施設が中心となった社会教育の活性化のための先駆的な事業の実施や評価を一体的に行う、全国に広く普及することが目的とした文部科学省生涯学習政策局社会教育課所管の新政策。平成16年度予算総額は306百万円である。

---

#### (2) 情報化拠点の前提となる情報拠点

情報化拠点としての図書館は、また、地域の情報拠点でもあります。図書館が情報拠点であるという認識はそれほど新しくはありません。たとえば、生涯学習審議会の答申「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」(平成12年11月28日)においては、情報化に対応した今後の図書館の在り方として次のような方向が示され、新しい情報通信技術の活用により図書館が「地域の情報拠点」としてその機能を飛躍的に拡大する可能性が指摘されています。

- インターネットや衛星通信を活用しつつ、デジタル化された資料・情報を地域住民に提供するなど、情報拠点としての機能を高度化すること
- 「地域への情報提供」に加え「地域からの情報発信」という機能を持つこと
- 紙媒体等による資料・情報と電子化された資料・情報とを有機的に連携させること
- 外部のデータベース等の情報を提供すること

障がい者や高齢者などにとっても図書館の資料・情報を利用しやすくすること  
住民の情報リテラシーの習得を支援すること

出所：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/12/12/001260a.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/12/12/001260a.htm)

を除き、ここでは情報拠点としての図書館の機能強化が取りあげられています。前節で触れた「知の蓄積活動」の高度化の具体的な内容となっており、これらの施策の実施は地域情報化拠点としての図書館の構築の前提となります。調布市でもこの点について、しっかりした対応が求められますが、これだけでは調布市の特徴は出ません。今回の試みは、ここでは異質の に関連し、それをさらに拡張するものになります。

### 3.3 本年度の活動内容と今後の予定

地域情報化の拠点としての図書館機能充実のため、文部科学省の委託事業である「社会教育活性化21世紀プラン」のモデル事業による助成金を活用して以下の事業に取り組みました。

#### (1) 今年度の活動内容

図書館セミナーの開催(参考資料:3-1 セミナープログラム)

図書館を地域情報化の拠点とするためには、まず、地域情報化とはどのようなことを指すのか、その推進のための条件とは何かなどについて、市民や図書館職員に十分な知識と正しい理解が必要です。そのための学習の場として、また、情報化拠点を形成する活動そのものの実践例として、市民及び図書館職員それぞれを対象として図書館セミナーが開催されました。これは、前年度のWG1・オープンゼミの発展型でもあります。

図書館セミナーでは、コミュニティと情報化、新しい図書館、メディアの可能性等のテーマで、先進自治体の地域情報化への取組事例、IT技術の可能性と課題等について学習し、コミュニティの情報化を市民が自主的・自律的に推進するためのリーダーを「市民コーディネーター」として、その養成の努力がなされました。

市民セミナー受講者からは、早速、ITを地域やコミュニティの活性化に活用しようという積極的な動きが芽生え、図書館をその拠点とするための具体的な提案も検討され始めています。

職員向けセミナーでは多彩な図書館関係者から学び、今後の取り組みへの職員の意欲が高まりました。

#### e-ラーニングの実施

図書館セミナーでの講義内容をビデオに収録し、当日のレジュメ等のスライドとともに、図書館ホームページ上で公開されました。セミナーに参加できなかった方にも、地域情報化の拠点としての図書館の可能性についての学習情報が提供されました。

#### 地域情報レファレンス事例のホームページへの公開

これまでに図書館へ寄せられた地域情報に関連した質問と回答は、データベース化して図書館ホームページに公開され、回答内容から書誌データベースへのリンクによって地域に役立つ情報を発信するシステムが構築されました。

## 市民意識調査の実施

地域情報化の拠点としての図書館の役割、資料整備、事業計画等に資するためのアンケート調査が実施されました。詳細な分析結果は、17年度以降の事業計画に反映される見込みです。

## (2) 地域情報化の拠点としての図書館の役割

「調布市地域情報化基本計画」では、「9. 知のコモンズとしての図書館」において、“情報の館”であり、“人類の共同知の館”である図書館が、地域情報化の拠点としての役割を果たすことが期待されています。

基本計画では、地域情報化について「市民(生活者)が・・・日常的な生活や活動の場面で遭遇したり、直面してきた問題や課題を、情報技術(IT)の手助けにより解決する新たな手法」と位置づけていますが、図書館はこれらの問題解決に至るまでの関連資料の検索、提供等、まさしく“情報・共同知の館”としての役割を果たすこととなります。

もちろん、図書館で、市民自らが入手する情報や知識をもってしても難解で、解決を図ることができ得ない法律問題や家庭問題、その他福祉に関する問題など極めて高度の専門性を有するものもあります。

そうした場合も含めて、調布市には弁護士による相談業務のほか、各種専門相談等を実施する関係機関・部署も設置されているところから、図書館が、速やかにこれらの相談業務に関する情報を提供するなど、問題解決に当たっての手助けをすることも可能です。そのためには、今にもまして、そうした関係機関・部署との協議調整や既存の行政システムとの整合性も図りながら、互いの制度の有用性、有効性等の理解を前提とした密接な連携が必要とされます。いずれにしても、市民は、解決が困難な問題であろうとなかろうと、自らの手で関連する情報を容易に図書館で入手することができます。

併せて、地域情報化をより迅速かつ効果的に推進するためには、基本計画においても示唆されているように、IT時代の到来に伴い、図書館は本格的なハイブリッド機能(従来の紙ベースに加えて電子媒体による情報の提供等)を備えていくとともに、市民の情報リテラシーの形成やデジタルデバイドの解消にも努める必要があります。情報化拠点としての図書館は、ハード部分の整備・提供もさることながら、従来の司書業務を高度化し、市民の問題発見能力の向上やIT活用ノウハウを含めた環境づくりに取り組むことが望まれます。

## (3) 今後の予定

特に調布市に関する資料・情報について、紙ベース資料と同様にデジタル情報も積極的に収集・提供することが計画され、年次的に実施される予定です。

具体的には、図書館を拠点とした地域情報化に係る事業が継続的に取り組まれる予定ですが、事業の計画・実施に当たっては、今年度同様に専門的識見を有する電気通信大学の協力・支援を得て、また、図書館セミナーに参加した市民コーディネーターを養成しつつ、

その協働の下に実施される予定です。

市民コーディネーターの養成については、市民が自主的・主体的に活動できるように組織化等を支援するほか、会場提供等の必要な事務的援助が行なわれる予定です。

【参考資料】

3 - 1 図書館セミナープログラム

第1クール(夏季集中)30名定員

日付	講師	タイトル
8/13(金) 10:00-10:30	福田 豊(電気通信大学教授)	調布の地域情報化と図書館
8/13(金) 10:30-12:00	増淵 勝典(調布市)	総合計画と地域情報化
8/13(金) 13:10-14:40	小林 隆(東海大学政治経済学部 政治学科 講師・慶應義塾大学 SFC 研究所所員)	大和市の電子会議室の役割
8/13(金) 14:50-16:20	茶谷 達雄(都市情報システム研究 所 所長)	自治体の情報化の勘所
8/14(土) 10:00-12:00	斉藤 誠一(立川市立図書館調査 係長)	情報活用の拡がり、地域をきわ立たせる
8/14(土) 13:10-14:40	山崎 博樹(国立国会図書館関西 館主査)	地域情報化拠点とする図書館
8/14(土) 14:50-16:20	山崎 博樹・斉藤 誠一 竹内 利明(電気通信大学客員教授)	地域情報化拠点とする図書館への 挑戦
8/15(日) 10:00-12:00	永野 寛(情報通信総合研究所リ サーチャー・電通大客員助教授)	ケータイの逆襲
8/15(日) 13:10-14:40	小林 宏一(東洋大学教授)	メディアがつくる新たな関係性
8/15(日) 14:50-16:20	南條 勉(マイクロソフト社 オフィスサービス開発統括部)	知的活動支援ツール(IA)としての パソコンとコミュニティ

第2クール(演習型)20名定員 時間はいずれも18 - 20時

日付	講師	タイトル
9/4(土)	福田 豊(電気通信大学教授)	私の情報生活
9/11(土)	竹内利明(電気通信大学客員教授)	図書館ボランティアにおけるコミュニティ・ビジネスの可能性を考える
9/18(土)	小林 隆(東海大学政治経済学部政治学科 講師・慶應義塾大学SFC 研究所所員)	オーラを見つけよう1 (市民参加を推進する方法について)
10/2(土)	常世田良(浦安市生涯学習部次長)	図書館が日本を救う? (ハイブリッド図書館の可能性)
10/9(土)	小林 隆(東海大学政治経済学部政治学科 講師・慶應義塾大学SFC 研究所所員)"	オーラを見つけよう2 (自己チューウについて)
10/16(土)	茶谷 達雄(都市情報システム研究所 所長)	知らせないで知ろう (知る権利と知らせない権利)
10/23(土)	永野 寛(情報通信総合研究所リサーチャー・電通大客員助教授)	あなたを誰かが見つめてる (モニター(監視)社会について)
10/30(土)	小林 宏一(東洋大学教授)	メディアはパワー (メールの便利・不便について)
11/6(土)	國領二郎(慶應義塾大学教授)	怪人ユビキタスの夢 (どこでもコンピュータで何をするか)

第3クール(職員研修)

日付	講師	タイトル
8/24(火) 10:00-12:00	福田 豊(電気通信大学教授)	なぜ図書館が情報化拠点なのか -図書館の自己組織化に向けて-
9/27(月) 13:00-15:00	小林是綱(地域資料デジタル化研究会 理事長) 竹内利明 (電気通信大学客員教授)	地域情報化は従来型図書館にできるだろうか。
9/27(月) 15:00-17:00	栗田仁(建築家・東海大学非常勤講師)	これから市民に甚だしく感謝される図書館員
9/28(火) 13:00-15:00	齋藤明彦(鳥取県立図書館長)	鳥取県立図書館は何を考え、どう行動するか。

10/25 (月) 13:00-15:45	渡部幹雄(愛知川町立図書館長)	まちづくりと図書館 ～ コミュニティにおける図書館活動の 実践を通して～
10/25 (月) 16:00-17:00	渡部幹雄・竹内利明	
10/26 (火) 10:00-12:00	大串夏身(昭和女子大学教授)	地域情報化拠点としての図書館にお ける地域情報収集システム
12/21 (火) 10:00-12:00	山崎 博樹(国立国会図書館関西 館主査)	地域電子図書館を構築するために －公共図書館による情報発信－
1/25 (火) 10:00-11:30	糸賀雅児(慶應義塾大学教授)	図書館政策と地域情報化拠点として の図書館